

大阪市ヤングケアラーへの寄り添い型相談支援事業業務委託（長期継続）
公募型プロポーザルにかかる質問項目及び回答について

質問項目		回答	
Q1	本事業の対象者となる方々の抱える課題について、貴自治体における特徴等があればご教示ください。	A1	他市区町村との定量比較はできませんが、有識者からは他都市と比べて人口規模が大きい本市はヤングケアラーが多い可能性があるとの意見をいただいております。 なお、大阪市立中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査報告書を公表しておりますのでご覧ください。 https://www.city.osaka.lg.jp/templates/chonaikaigi2/kodomo/0000571852.html
Q2	過年度および本年度の、LINEやSNSでやり取りしている対象者の実人数をご教示ください。	A2	令和5年度: のべ47名 令和6年度: のべ70名(令和6年11月末時点)
Q3	過年度および本年度の、LINEやSNSでの延べ支援回数をご教示ください。	A3	受信及び送信回数 令和5年度: 延べ1,893件 令和6年度: 延べ1,573件(令和6年11月末時点)
Q4	過年度および本年度の、支援対象者数をご教示ください。	A4	大阪市全体の支援対象者数は把握しておりませんが、本事業では大阪市民の中学生、高校生世代を事業対象者としており、相談があったこともへの支援を行っていただきます。 また、大阪市民ではなかった等の理由により本事業の対象外と判明した場合においても、必要に応じて関係機関にお繋ぎいただきます。 なお、令和5年度における各区子育て支援室への新規相談件数は81件です。
Q5	過年度および本年度の、電話相談、対面相談、同行支援の実施回数をそれぞれご教示ください。	A5	令和5年度: 電話321件、対面99件、同行支援7件 令和6年度: 電話255件、対面89件、同行支援3件(令和6年11月末時点)
Q6	主として連携している関係機関をご教示ください。	A6	各区子育て支援室、ヤングケアラーが通う中学校・高校、社会福祉協議会、地域包括支援センター、SSW、こどもサポートネット推進員、こども食堂、地域の支援団体等が連携している主な関係機関となっておりますが、企画提案仕様書4(3)でお示ししているとおり、地域その他団体等との連携を進めるために、顔の見える関係づくりを行うための企画提案を行っていただきたいと考えております。
Q7	キャリア相談支援は、相談員が実施しても差し支えないでしょうか。	A7	差し支えございませんが、必要に応じてキャリアコンサルタント等の有資格者が所属する支援団体等と連携していただきます。
Q8	相談業務運営場所の設置がやむを得ず業務開始日に間に合わない場合は、一時的に事業者が所有する別拠点を活用することは差し支えないでしょうか。	A8	企画提案いただいた場所において、事業を実施していただきます。
Q9	「本業務の運営に必要な独立した場所を確保すること」とありますが、独立しているとはどういった状況を指しますでしょうか。別業務と同一の拠点内に、使用用途を明確に区分し場所を用意することは差し支えないでしょうか。	A9	別業務と同一の拠点内であっても使用用途が明確に区分された場所であれば差し支えございませんが、どのような場所で事業を実施していただくのか、企画提案していただきたいと考えております。
Q10	過年度および本年度の、オンラインサロンとレスパイトの実施回数と1回あたりの平均参加人数を、それぞれご教示ください。	A10	令和5年度: オンラインサロン12回 平均約2名、レスパイト3回 平均約4名 令和6年度: レスパイト(オンライン参加含む)9回 平均5名 (令和6年11月末時点)
Q11	相談員の配置人数について、昨年度より1名増えている理由をお聞かせください。	A11	これまでの相談対応実績等から「相談員を3名以上配置すること」としてしておりますが、どのような実施体制で事業を進めていくのか、企画提案していただきたいと考えております。
Q12	相談業務責任者とレスパイトの業務責任者は別の人物でも問題ないでしょうか。	A12	レスパイトの業務責任者は、企画提案仕様書4(1)エ ①相談業務責任者 もしくは、企画提案仕様書4(1)エ ②相談員(常勤の者に限る)としてください。